

## 『応用心理学研究』執筆要領

### 【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】

- 1 原著，資料の構成として，「問題」，「方法」，「結果」，「考察」，「引用文献」の各部分を含むことを原則とする。「問題」のかわりに，「はじめに」や「背景」，「目的」等，対応する内容の別の名称を用いてもよい。また，「考察」の後に「おわりに」や「結論」，「まとめ」等の部分を追加してもよい。総説および実践報告は上記の構成に従わなくてもよいが，論文の目的から結論に至る筋道がわかりやすい構成になるよう留意する。なお，著者を特定できる情報や記述は伏字にする。
- 2 「方法」の中で，または「方法」と「結果」の間に「倫理的配慮」の部分を挿入して，研究倫理に関して実施した配慮を記述する。
- 3 本文中の見出しは，通常「中央大見出し」，「横大見出し」および「横小見出し」の3種類用いられるが，一部を省略してもよい。細目は次のとおりであり，いずれもボールド体で印字する。  
中央大見出し：誌面の左または右コラムの中央に書く。その上下に0.5行あけて書き（改行幅1.5行），ピリオドは付けない。  
例）実験，調査，全体的（総合的）考察，引用文献など  
横大見出し：上に行をあげず，ピリオドは付けない。そして本文は改行して始める。  
例）目的，方法，結果，考察など  
横小見出し：上に行をあげず左端から1文字あけて書く。ピリオドを付けずに1文字あけて本文を続ける。  
例）被験者，装置，手続きなど
- 4 見出し以外に区別を示す方法として次の2つがある。  
段落に序列を付ける場合には，1. 2. 3. ...と算用数字を用い，順次改行する。  
文章中あるいは段落内で序列を付ける場合には，(a)，(b)，(c)と改行せずに続ける。
- 5 句読点については，終止符はマル（。），語句の切れ目はコンマ（，）を用いること。また，並列する同種の語を列挙する場合，あるいは外国語の片仮名書きをつなぐ場合には，中黒丸（・）を用いる。
- 6 数字は原則として算用数字を用いる。計算単位は，原則として国際単位系（SI）を用いる。
- 7 文献の引用は次のようにする。  
本文中の場合：“軽部（2020）は・・・”，“上瀬・古屋（2020）によれば・・・”，“Matsuda & Yano（2020）は・・・”，“Furuya, Kamise & Karube（2020）は・・・”

文末の場合：“…である( 軽部, 2020 ) ”; “…である( 上瀬・古屋, 2020 ) ”,  
“…である ( Matsuda & Yano, 2020 ) ”

著者が 3 人以上の場合：初出の際には全著者の姓を書く。2 度目以後は，日  
本語の場合第 1 著者の姓を書き，その他の著者は“他”と略す。欧語の場合  
には，“et al.”とする。

例) “矢野他, 2020 ”, “Matsuda et al. (2020) ”

- 8 図,表および写真は著者の責任で作成し,本文中の適切な場所に組み込む。  
図表の幅が本誌 1 段,または 2 段に収まるように作成する。その際,図表中  
の文字が小さくなりすぎたり,大きくなりすぎたりしないように調整する。  
図表の横に空きスペースがあっても本文の文章は入れない。

表の番号は Table 1, Table 2 のように算用数字で通し番号を付け,簡潔な  
題を付けて表の最上部に置く。また図,写真については Figure 1, Figure 2  
と通し番号を付け,題を付けて図の最下部におく。

- 9 図表は白黒で作成する。ただし,著者が希望し編集委員会が認めれば色が  
使用できることがある。その場合,カラー印刷に伴う費用は著者の負担とす  
る。  
(削除)

- 10 本文中で引用した文献はすべて,本文の最後に,引用文献の章を設けて一  
括して記載する。記載方法は日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」の最新  
版に従う。本手引きは,日本心理学会の該当 WEB ページ  
(<https://psych.or.jp/manual/>) を参照すること。

### 【「論文本文(短報用)」ファイルの作成】

- 1 論文の長さが印刷済みで必ず 2 頁に収まるように作成する。ただし,投稿・  
採択された論文が投稿時のレイアウトのまま印刷されるのではない。投稿時  
は 2 頁に収まっていても,審査段階や審査通過後の編集段階で 2 頁を超過す  
ると掲載できなくなるので,注意すること。
- 2 1 頁目の最上段は,左右いずれの側も 2 行あける。そして,その下の左側  
上段より,日本語表題,日本語著者名,英語表題,著者名のアルファベット  
表記,英文アブストラクト,キーワードの順に記載する。なお,原稿を英文  
で作成する場合は,日本語表題と日本語著者名は記載せず,行をつめる。そ  
れぞれのフォントの大きさや行の間隔等は『論文本文(短報用)\_テンプレ  
ート』を参照すること。なお,投稿する際は,著者名と著者名のアルファベッ  
ト表記の部分は行数をそのまま空白にする。
- 3 著者名の右肩に上付文字の\*を付し,左側最下段の脚注欄に著者の所属機関  
名とその英語表記,および所在地の英語表記を記載する。表記は【「表題と著  
者情報」ファイルの作成】の 2 と同一にする。

また,【「表題と著者情報」ファイルの作成】の 4 で脚注に記載した事項が  
ある場合は,同じ脚注記号を付して同一のものを左側最下段の脚注欄に記載

する。

- 4 キーワードの下より、本文を記載する。本文は、「問題」、「方法」、「結果」、「考察」、「引用文献」の各部分を含むこと。「問題」のかわりに、「はじめに」や「背景」、「目的」等、対応する内容の別の名称を用いてもよい。なお、著者を特定できる情報や記述は伏字にする。
- 5 「倫理的配慮」について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の2と同じ。
- 6 本文中の見出しについて、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の3と同じ。
- 7 見出し以外に区別を示す方法について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の4と同じ。
- 8 句読点と中黒丸（・）の使用について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の5と同じ。
- 9 数字と計算単位について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の6と同じ。
- 10 文献の引用について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の7と同じ。
- 11 図表について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の8および9と同じ。
- 12 引用文献の一括記載について、【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の10と同じ。

#### 【「図」ファイルの作成】

- 1 本文中に組み込んだ図（【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の8を参照）をすべて、番号順に、1頁に1枚ずつ記載する。
- 2 記載する図は、本文中に組み込んだ図と同一であること。なお、見やすい大きさに適宜拡大してもよい。

#### 【「表」ファイルの作成】

- 1 本文中に組み込んだ表（【「論文本文（原著・総説・資料・実践報告用）」ファイルの作成】の8を参照）をすべて、番号順に、1頁に1枚ずつ記載する。
- 2 記載する表は、本文中に組み込んだ表と同一であること。なお、見やすい大きさに適宜拡大してもよい。

#### 付則

- 1 この執筆要領は、令和2年8月29日より有効とする。
- 2 この執筆要領において規定されていないことについては、編集委員長が決定する。
- 3 この執筆要領の変更は、編集委員会の議を経て決定し、常任理事会の承認を得るものとする。